美浜3号事故2年に際し、美浜原子力発電所の閉鎖を求める

2年前の8月9日、関西電力の美浜原発3号機で復水系配管破断事故が起きた。噴出する高温蒸気を浴びて下請作業員5名が即死し、6名が重軽傷を負った。遺族の怒りと悔しい思いは今なお絶えることがない。重軽傷を負った作業員の痛みは治まらず、刻み込まれた心の傷は癒えることがない。

事故を引き起こした関西電力は、未だ刑事責任を問われず、経営トップが事実上居座り続け、社会的責任も果たしていない。にもかかわらず、美浜3号を9月下旬に再起動し、2週間の試験運転を経て10月には営業運転を開始すると発表した。これは遺族の心を逆なでする居直りであり、無責任な事故の幕引きである。

美浜3号は今年12月に営業運転開始から30年を迎える。建設当初「寿命は30年」と言われた。大事故で死者を出した原発をなぜ寿命を超えて生かし続けるのか。美浜1号や2号も30年を超え、40年に近づいている。私たちは、大事故を起こし、老朽化し、耐震安全性も疑われる美浜原子力発電所の全面閉鎖を求める。

関西電力は今なお「破断事故が起こるまで当該配管が減肉していたことを知らなかった」と言い張る。しかし、大飯1号での予想外の減肉で美浜3号の当該配管が未点検であることを事故直前に発見しながら放置した責任、日本アームが「当該配管の点検登録漏れ＝26年半無点検」を発見してから1年4カ月もの間、何度も是正する機会がありながらすぐ点検せず先送りにした責任など、その核心部分が未解明である。1万点以上の証拠資料を押収し2年間捜査し続けている福井県警と検察には遺族と国民に対する重い責任がある。補修課担当者、美浜発電所長、若狭支社長、本社経営トップ、どこまで刑事責任を問うのか、その判断が注目されている。その結論はまだおりていない。その段階で、なぜ今、急いで美浜3号を再開させるのか。

関西電力は「再発防止に係る行動計画」を昨年3月25日に発表し、当時の藤社長は「安全を守る。それは私の使命、我が社の使命」と宣言した。しかし、この行動計画を策定していた1～3月、事故配管取替工事で三菱重工業による取替用配管の刻印番号打ち替えが行われ、11月になって三菱重工業と関西電力のズサンな品質保証活動が明らかになった。また、今年3月には大飯3・4号の廃棄物処理建屋内で原因不明の火災が発生した。関西電力の品質保証システムが整備され、うまく機能しているとは到底言えない。

美浜原発では3基とも大事故を起こしている。運転開始間もない美浜1号では1973年4月、燃料棒折損事故が発生した。にもかかわらず、関西電力は3年半隠し続け、その後ほぼ7年間運転休止を余儀なくされた。美浜2号では1991年2月、蒸気発生器細管のギロチン破断事故で冷却水が噴き出した。1998年10月には使用済燃料やMOX燃料の輸送容器で中性子遮へい材レジンのデータ改ざんが発覚した。その教訓がさめやらない1999年9月、関西電力は若狭ネットなど市民グループからの再三の指摘を無視し、英BNFLによる高浜原発用MOX燃料ペレットの外径データ改ざん事件を見抜けなかった。これらの大事故・大事件のたびに、関西電力は「反省」を語り、「改善」を約束してきた。しかし、火力より発電単価の高い原発で経済性追求を図るため、品質保証活動は置き去りにされた。大事故による5名の死と6名の重軽傷はその結果である。この犠牲を無駄にしてはならない。30年間できなかった品質保証システムが、なぜ今確立されたと言えるのか。

関西電力がその責任を果たす道は美浜原子力発電所の自主的閉鎖以外にないと、私たちは考える。

政府の地震調査研究推進本部は美浜原発周辺の陸域と海域の活断層が連動して兵庫県南部地震を超える大地震が起こる危険性を指摘している。原発震災を美浜原発で起こさせてはならない。そのためにも、何度も大事故を起こし老朽化し「30年」の当初寿命も尽きた美浜原子力発電所を全面閉鎖すべきである。

私たちは、原発重大事故が起こる前に美浜発電所を閉鎖するよう、関西電力に強く求め、関係自治体にそのための協力を強く要請する。

若狭連帯行動ネットワーク
福井連絡先：〒915-0235　越前市不老町6-36　山崎隆敏方
大阪連絡先：〒583-0005　藤井寺市惣社1-1-21久保きよ子方